

豊田市幹線道路網整備計画

2017年度 → 2024 年度

概要版



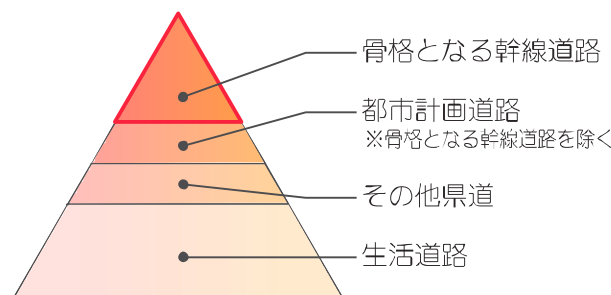
1 策定の背景

前計画の策定（2005年4月策定）から12年が経過し、本市を取り巻く社会環境、道路事業を取り巻く環境が大きく変化しています。

このような状況を踏まえ、環境の変化に対応し、より効率的かつ効果的、計画的な道路整備の推進を図るため、第8次豊田市総合計画の策定にあわせ、計画の見直しを行いました。

2 対象路線

対象路線は、活力と魅力を備えた持続可能な都市の実現に必要な高規格幹線道路を中心とした骨格となる幹線道路（国道・県道・市道）です。

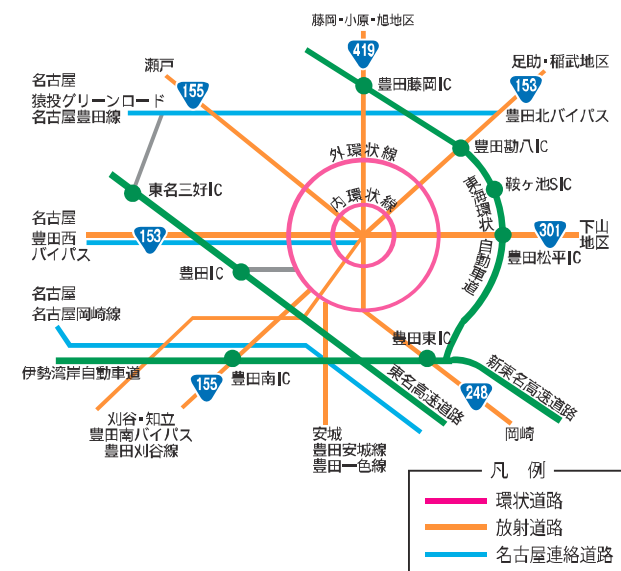


3 骨格となる幹線道路網の考え方

骨格となる幹線道路網を形成する路線については、本市が直面する課題、社会経済情勢の変化等を踏まえ、これまでの広域交流・都市間交流を支える道路ネットワーク、市域の一体性・交流を支える道路ネットワークに、都市の強靱化を実現する道路ネットワークとして、災害時における迅速かつ確実な緊急活動を可能にする緊急輸送道路網等を加え、防災・減災力の向上、都市の強靱化を図ります。

● 広域交流・都市間交流を支える道路ネットワーク

交通の円滑化、安全・安心の確保を図る都市内環状道路、広域・都市間交流の活性化を図る放射・連絡道路



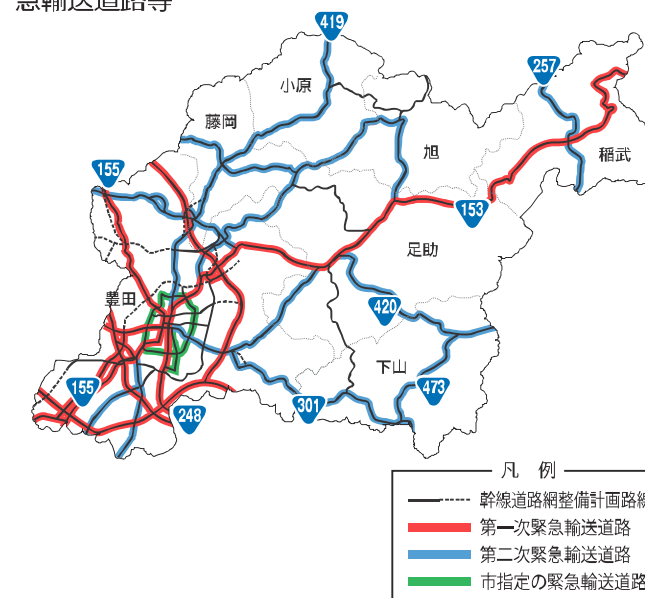
● 市域の一体性・交流を支える道路ネットワーク

中山間地域における拠点間を連絡し、安全で円滑な移動・交流、地域の活性化を図る幹線道路



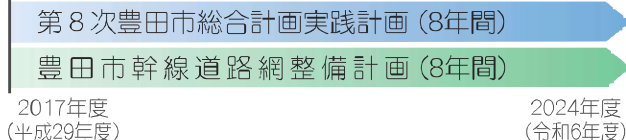
● 都市の強靱化を実現する道路ネットワーク

災害時における円滑かつ確実な緊急輸送を実現する緊急輸送道路等



4 計画期間

上位計画である第8次豊田市総合計画にあわせ、2017年度から2024年度末までの8年間です。



5 幹線道路網整備の基本的な考え方

● 選択と集中による重点化

事業効果の早期発現に向け、環状道路や主要プロジェクトに関連する事業などの重要事業においては、国、県、市で連携し、関連道路の整備も含め、限られた経営資源を集中的に投資し、事業進捗に応じたメリハリのある事業展開を推進します。

● 賢く使う取組の推進

最寄りに高速道路ICがあるにも関わらず遠方の高速道路ICを利用するなど、複数のICをもつ本市の強みを活かしてきていないため、国、県、市で連携し、既存の道路インフラを最大限活用し、機能の最大化、強化等、道路を賢く使う取組を推進します。

● ライフサイクルコストの縮減

橋りょうを始め舗装・照明灯等の道路構造物・附属施設について予防保全、維持管理の省力化の考え方を導入し、高い耐久性が期待される構造・材料の活用など、計画段階からライフサイクルコストの最小化を重視した総合的なコスト縮減を図ります。

● 関係機関との連携強化

事業効果の早期発現、事業効果の最大化に向け、一体的な道路ネットワークの形成、既存の道路インフラの最大限の活用等を図るため、道路管理者である国、県との連携はもちろん、交通管理者である警察等との、より一層の連携強化を図ります。

6 整備の方向性と整備方針

● 整備の方向性

— ネットワークの拡大から、計画的なネットワークの質の向上へ —

国、県、市で連携し、現在事業中路線の事業推進、早期完成により更なる道路ネットワークの強化を図るとともに、道路交通の現状と課題を踏まえ、3つの整備方針と5つの主要施策、目指す姿を定め、効率的で効果的かつ計画的な道路整備の推進を図り、ネットワークの質を高め、活力と魅力を備えた持続可能な都市の実現に必要な道路ネットワークの構築を目指します。

● 3つの整備方針



● 5つの主要施策

- 都市の成長
 - 施策① 物流ネットワークの更なる機能強化
 - 施策② 高規格幹線道路へのアクセス性の向上
- 生活の質の向上
 - 施策③ 日常の生活移動の円滑化
 - 施策④ 市域の一体性・交流を支える道路の整備
- 安全安心の確保
 - 施策⑤ 緊急輸送道路の信頼性の向上

7 豊田市の現状

製造品出荷額等は全国1位！

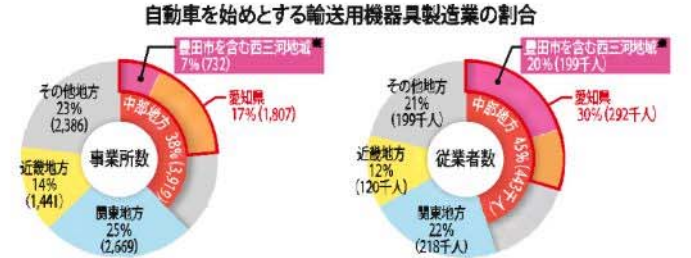
製造品出荷額等は13.1兆円（2014年）であり、全国1位です。愛知県内の約1/3を占め、全国6位の千葉県に匹敵します。



資料：経済産業省「H26工業統計調査」

ものづくり産業の集積地！

本市を含む愛知県の自動車を始めとする輸送用機器具製造業の事業所数は、全国の約2割、従業員数では全国の約3割を占め、ともに全国1位となっています。



※ 幸田町を除く「工業統計調査「市町村別データ」で、輸送用機器具製造業の内訳なし
資料：経済産業省「H26工業統計調査」

ICの利用台数は10年間で約2割増加！

2015年度の市内7つの高速道路ICの年間利用台数は約2,960万台であり、10年間で約2割増加しています。



資料：NEXCO中日本の資料を基に豊田市が作成

大規模国際イベントの会場候補地に選定！

愛知・名古屋2026アジア競技大会の会場候補となる施設があり、国内外から多くの観戦客の来訪が予想されます。



卓球(スカイホール豊田)

射撃(愛知県総合射撃場)

主要渋滞箇所数は愛知県下で最多！

主要渋滞箇所は73箇所あり、愛知県下（名古屋市除く）では最多となっています。（2013.1時点）



資料：愛知県道路交通渋滞対策推進協議会（H25.1.22）資料を基に豊田市が作成

中山間地は自動車交通に依存！

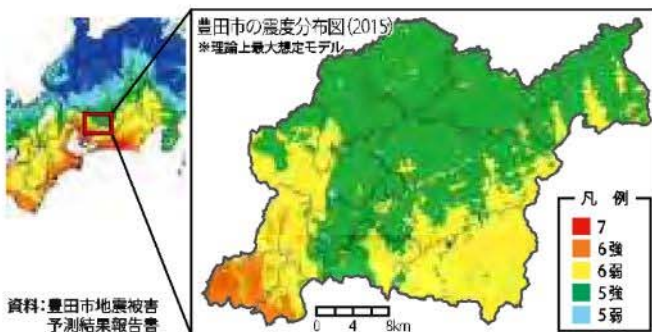
中山間地の自動車分担率は、都心に比べ高い傾向にあり、約8割以上が自動車交通に依存しています。



資料：第5回中京都市圏パーソナルトリップ調査

巨大地震などの高まる災害リスク！

近い将来、南海トラフ地震等の大規模災害の発生が確実視されており、災害リスクが高まっています。



資料：豊田市地震被害予測結果報告書

脆弱な緊急輸送道路！

緊急輸送道路のうち市内6区間は、異常気象時に通行不能となる可能性があり、豪雨等の影響により2010年からの6年で43回もの通行規制が発生しています。



資料：国、県提供資料を基に豊田市が作成

8 主要施策 1.都市の成長

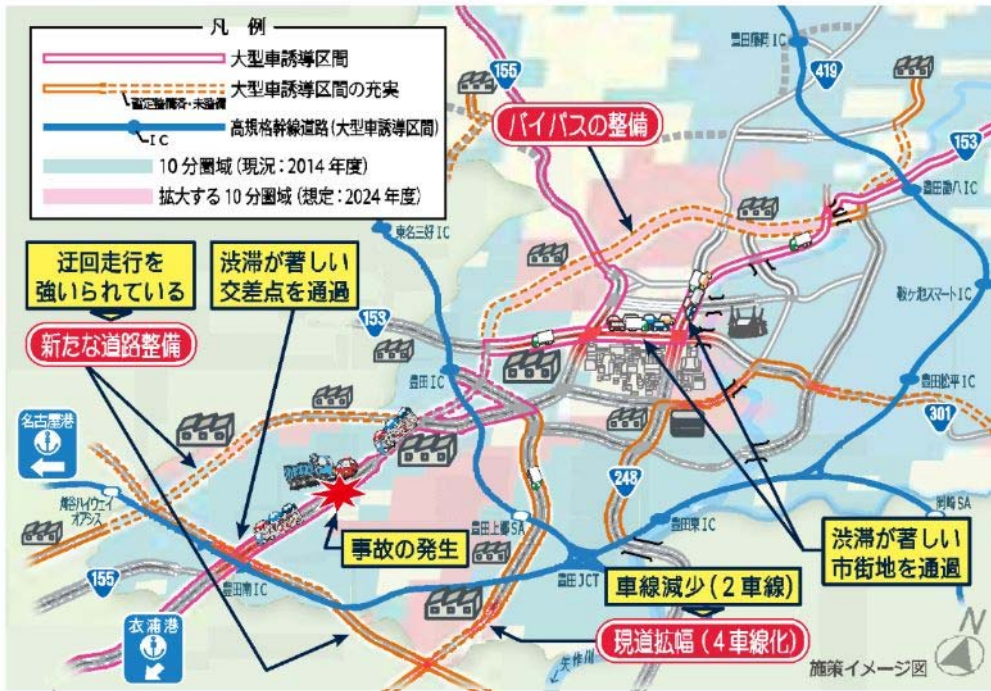
① 物流ネットワークの更なる機能強化

■ 目指す姿

自由に経路選択が可能な物流ネットワークが確保された効率的な企業活動が可能な都市

■ 取組内容

- ・港湾と主要産業施設を結ぶICへの良好なアクセス道路の整備を促進します。
- ・大型車誘導区間の充実と適正な誘導を促進します。



国道153号 豊田北バイパス



国道155号 豊田南バイパス

- 事業中区間・箇所
- ・国道155号 豊田南バイパス
 - ・国道153号 豊田北バイパス
 - ・国道301号 松平バイパス
 - ・(都)豊田刈谷線 始め9事業※
- ※再掲含む

② 高規格幹線道路へのアクセス性の向上

■ 目指す姿

市民をはじめ事業者、来訪者がICと中心市街地間を安全で円滑に移動でき、定時性や速達性、選択性が高い利便性の高い都市

■ 取組内容

- ・バス輸送の高度化等を可能にする4車線道路ネットワークの充実を図ります。
- ・スマートICの整備、ICへのアクセス道路の整備を推進します。



国道419号 四郷拡幅



豊田上郷スマートIC整備

- 事業中区間・箇所
- ・国道419号 (上原町~四郷町)
 - ・豊田上郷スマートIC整備 始め6事業※
- ※再掲含む

2.生活の質の向上

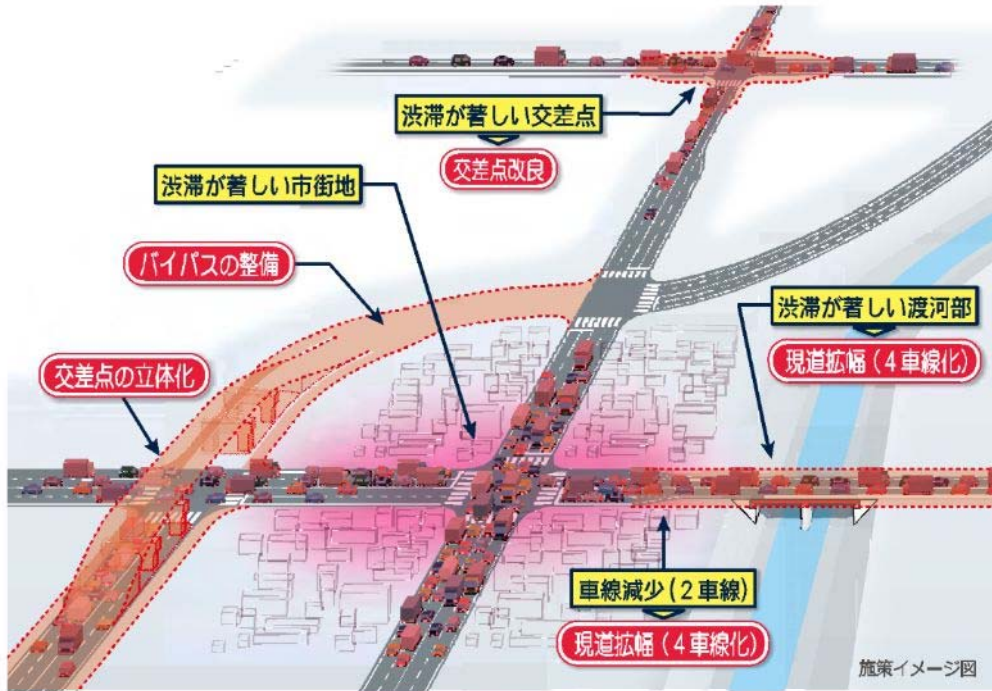
③ 日常の生活移動の円滑化

■ 目指す姿

通勤、通院、買い物、観光、レジャー等、日常の生活移動での円滑性、定時性を実現する道路ネットワークが確保された便利で快適な都市

■ 取組内容

・主要渋滞箇所の改善に向けた交差点改良、道路拡幅、バイパス整備等を推進します。



国道153号 平戸橋西交差点



国道419号 迫八反田交差点

● 事業中区間・箇所

- ・国道153号 平戸橋西交差点改良
- ・国道419号 迫八反田交差点改良
- ・国道419号 藤岡飯野交差点

始め15事業※
※再掲含む

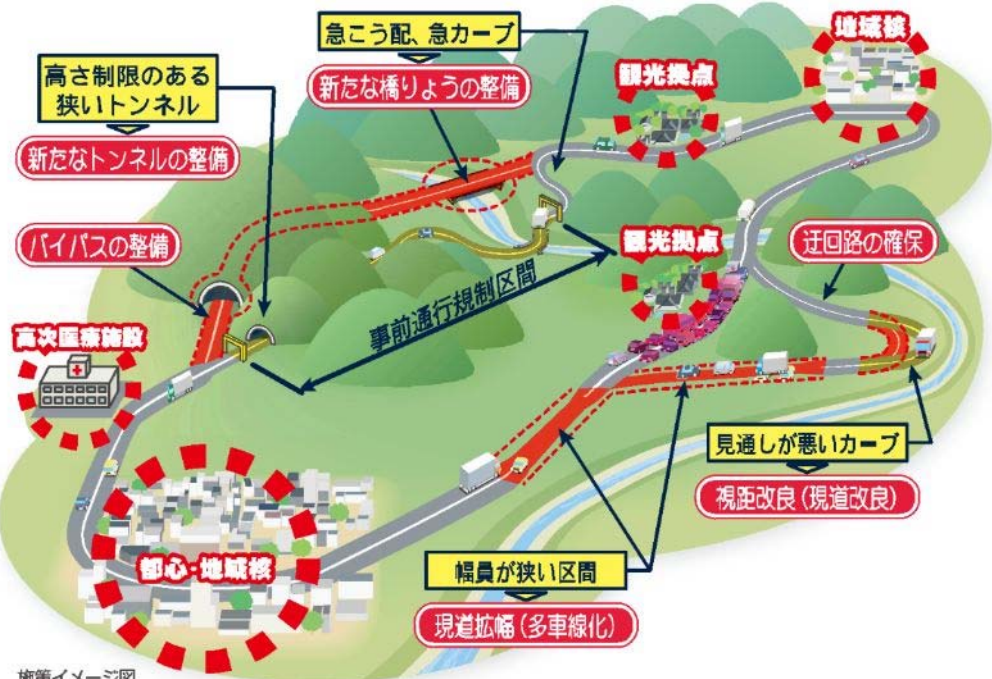
④ 市域の一体性・交流を支える道路の整備

■ 目指す姿

多様な移動手段で円滑に移動でき、かつ観光資源へ円滑にアクセスし周遊できる幹線道路が確保された市域の連絡性が高い都市

■ 取組内容

・中山間地から都心へのアクセス性や地区間、周辺都市への連絡性、観光資源間の回遊性を高める道路整備を推進します。



完成イメージ
国道420号 足助バイパス



(主) 豊田明智線 (浅谷町)

● 事業中区間・箇所

- ・国道420号 足助バイパス
- ・国道473号 (黒坂町～神殿町)
- ・(主) 豊田明智線

(浅谷町～須沢町) 始め14事業※
※再掲含む

3.安全安心の確保

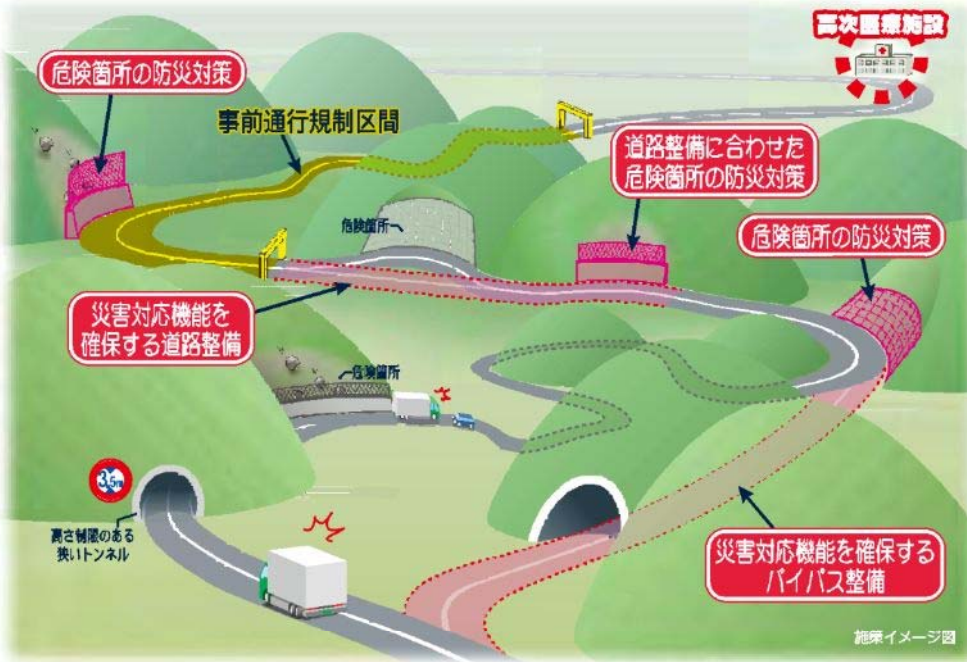
⑤ 緊急輸送道路の信頼性の向上

目指す姿

緊急輸送道路の信頼性が確保され、迅速で確実な緊急活動が可能な道路ネットワークが確保された都市

取組内容(1)

・緊急輸送道路におけるのり面や落石の危険箇所、事前通行規制区間等の課題に対し、バイパス整備や現道改良により災害対応機能を確保する道路整備や危険箇所等を解消する防災対策を推進します。



国道153号 伊勢神トンネル

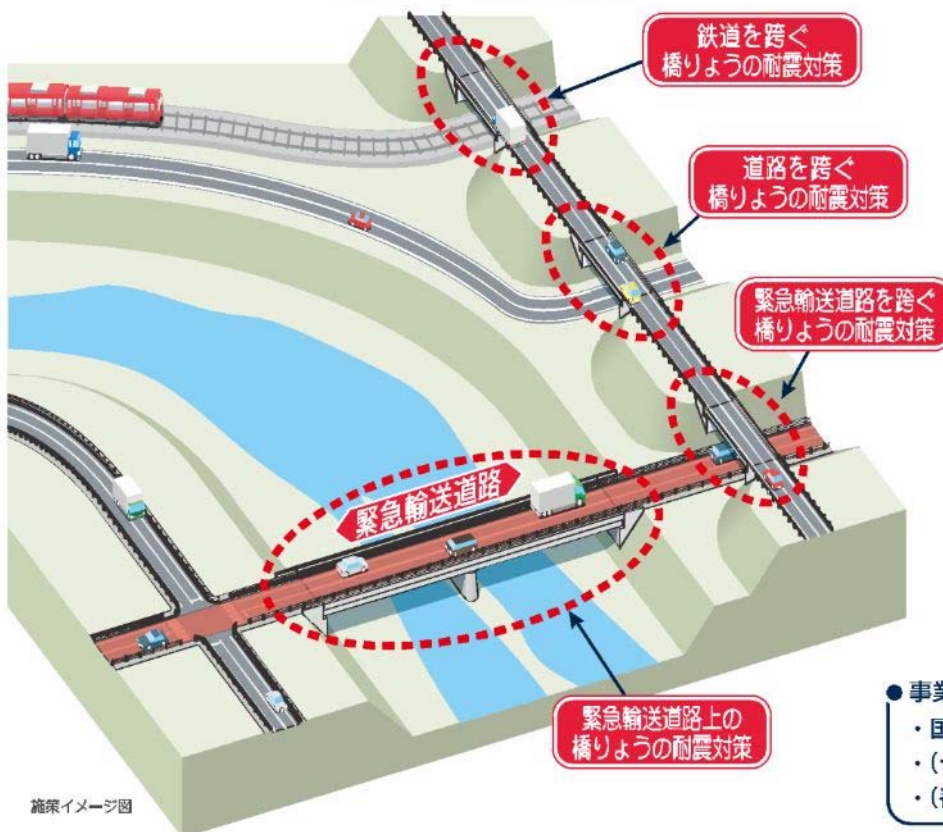


防災対策 落石防護工(事例)

- 事業中区間・箇所
 - ・国道153号 伊勢神改良 始め4事業*
 - 防災事業
 - ・国道301号 始め9路線
- ※再掲含む

取組内容(2)

・緊急輸送道路等における橋りょうの耐震化を推進します。



補強前



補強後

橋脚耐震補強(事例)

- 事業中区間・箇所
 - ・国道153号 千足高架橋(上り)
 - ・(一)豊田環状線 山室橋(下り)
 - ・(都)井上高橋線 平成記念橋 始め52橋

施策イメージ図

施策イメージ図

豊田市幹線道路網整備計画の概要

整備の方向性

ネットワークの拡大から計画的なネットワークの質の向上へ、3つの整備方針と5つの主要施策に基づき、事業を推進

整備方針1 都市の成長

施策① 物流ネットワークの更なる機能強化

目指す姿 自由に経路選択が可能な物流ネットワークが確保された効率的な企業活動が可能な都市

取組内容 ・港湾と主要産業施設を結ぶICへの良好なアクセス道路の整備を促進
・大型車誘導区間の充実と適正な誘導を促進

施策② 高規格幹線道路へのアクセス性の向上

目指す姿 市民をはじめ事業者、来訪者がICと中心市街地間を安全で円滑に移動でき、定時性や速達性、選択性が高い利便性の高い都市

取組内容 ・バス輸送の高度化等を可能にする4車線道路ネットワークの充実
・スマートICの整備、ICへのアクセス道路の整備を推進

整備方針2 生活の質の向上

施策③ 日常の生活移動の円滑化

目指す姿 通勤、通院、買い物、観光、レジャー等、日常の生活移動での円滑性、定時性を実現する道路ネットワークが確保された便利で快適な都市

取組内容 ・主要渋滞箇所の改善に向けた交差点改良、道路拡幅、バイパス整備等を推進

施策④ 市域の一体性・交流を支える道路の整備

目指す姿 多様な移動手段で円滑に移動でき、かつ観光資源へ円滑にアクセスし周遊できる幹線道路が確保された市域の連絡性が高い都市

取組内容 ・中山間地から都心へのアクセス性や地区間、周辺都市への連絡性、観光資源間の回遊性を高める道路整備を推進

整備方針3 安全安心の確保

施策⑤ 緊急輸送道路の信頼性の向上

目指す姿 緊急輸送道路の信頼性が確保され、迅速で確実な緊急活動が可能な道路ネットワークが確保された都市

取組内容(1) ・緊急輸送道路におけるのり面や落石の危険箇所、事前通行規制区間等の課題に対し、バイパス整備や現道改良により災害対応機能を確保する道路整備や危険箇所等を解消する防災対策を推進

取組内容(2) ・緊急輸送道路等における橋りょうの耐震化を推進

【総合指標】

指標	現況	目標 (2024年度)
幹線道路の整備率	65% (2016年度)	78%
市民一人当たりの渋滞損失時間	67.4時間/年・人 (2014年度)	61時間/年・人

【成果指標】

番号	指標	現況	目標 (2024年度)
①-1	ICへ10分以内に到達可能な主要産業拠点の割合	60% (2014年度)	86%
①-2	大型車誘導区間の充実に向けた主要な物流路線の整備率	61% (2016年度)	86%

番号	指標	現況	目標 (2024年度)
②-1	市中心部から各ICへのアクセス道路の整備率	69% (2016年度)	77%
②-2	スマートICを整備する箇所数	-	1箇所

番号	指標	現況	目標 (2024年度)
③-1	主要渋滞箇所数	73箇所 (2012年度)	44箇所
③-2	ICへ10分以内に到達が可能な市民の割合	54% (2014年度)	77%

番号	指標	現況	目標 (2024年度)
④-1	車道幅員が5.5m以上に改良された道路延長の割合	92% (2016年度)	94%
④-2	市域の一体性、交流を支える道路を整備する延長	-	10.2km

番号	指標	現況	目標 (2024年度)
⑤-1	緊急輸送道路においてバイパス整備や現道改良により災害対応機能を確保する道路整備の完了事業数	-	3事業
⑤-2	⑤-1のうち、事前通行規制区間の完了事業数	-	1事業
⑤-3	緊急輸送道路における危険箇所等を解消する防災対策の実施路線数	-	9路線
⑤-4	⑤-3のうち、事前通行規制区間の実施路線数	-	5路線
⑤-5	緊急輸送道路等において耐震補強を実施する橋りょう数	-	52橋

